

◆患者さんへ ～肺癌手術成績に関する臨床データ利用のお願い～

肺癌の患者数は年々増加傾向にあり、日本における癌の死因の中でも 1 位を占めるようになりました。当科における手術症例も増加傾向にあり、特に高齢者に対しては、体への負担の少ない胸腔鏡手術を導入し、積極的に治療にあたっております。高齢者の特徴として、様々な疾患を抱えていることが多いため、関連する診療科（呼吸器内科、放射線科、歯科口腔外科、リハビリテーション科など）と協力しながら、早期退院を目指しています。こうした肺癌症例が増加する中で、さらなる治療成績向上のためにも当科にて手術を行った肺癌患者さんのさまざまな臨床データ（喫煙歴、手術前後の各種血液データ、呼吸機能、手術方法、手術時間、使用した薬剤など）を集めて研究をして、今後さらなる治療成績の向上に役立てたいと考えております。また得られた結果については、有益なデータとして、学術活動の一環として、学会報告や学術論文に投稿、公表をしていきます。

これらの臨床データ、情報については、通常に診療を受けていただく際に記録される診療データであり、特別に採血やレントゲンなど患者さんに負担していただき、収集されるものではありません。患者さんにはこうした研究に臨床データを利用する目的、趣旨をご理解いただきますようによりしくお願い申し上げます。これらの臨床研究に関してさらに説明を希望される患者さんやご家族様、また臨床データの利用を希望されない患者さんやご家族様がいらっしゃるようでしたら、呼吸器外科：日野春秋；03-3964-1141(代表)までお申し出ください。

◆「高齢者肺癌切除症例の手術成績に関する多施設後ろ向き観察研究」の臨床研究参加に関するお願い

【はじめに】

現在、原発性肺癌は日本人の癌死因の中で 1 位を占める疾患となり、現在も増加の一途をたどっています。また高齢化社会の中で癌罹患患者も高齢化が進み、肺癌患者の手術症例も平均 70 歳前後と高齢化しつつあります。日本胸部外科学会の報告によると、80 歳以上の原発性肺癌手術症例は、2007 年では 8.7%であったものが、2011 年には 11.5%を占めるようになり、全体の 1 割を超える時代となりました。今後確実に増加する高齢者肺癌の治療成績についてはより多くの症例をまとめた治療成績を詳細に検討して、今後の治療成績の改善のために必要な基礎的データの解析が求められています。

【研究内容】

本研究では原発性肺癌（非小細胞肺癌）に対して手術を受けられた 80 歳以上の患者さんの経過を後ろ向きに観察して、様々な手術成績（術前の併存疾患、術後の合併症、長期予後など）を多施設共同で検討し、高齢者肺癌の治療成績の妥当性について解析を行い、今後の治療成績改善のための情報を得ることを目標にします。

【対象患者】

1990年1月1日～2014年12月31日までの期間に東京都健康長寿医療センター（当院）と東京大学医学部附属病院呼吸器外科およびその関連施設、注）にて手術を行った、80歳以上の肺癌症例を対象とします。

注）東京大学医学部附属病院呼吸器外科及びその関連施設

東京大学医学部附属病院

JR 東京総合病院

NTT 東日本関東病院

日本赤十字社医療センター

国立病院機構東京病院

国保旭中央病院

茅ヶ崎市立病院

【患者さんの個人情報の管理について】

本研究の過程において、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない患者さん、ご家族さまは以下連絡先までご連絡ください。

【医学上の貢献】

本研究の結果により、現在の高齢者肺癌治療の現状を把握するとともに、治療成績の改善に向けた大切な情報を収集、解析します。

【研究機関】

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター呼吸器外科

研究責任者：日野春秋（医長）

分担研究者：中島 淳 東京大学医学部附属病院

田中真人 JR 東京総合病院

松本 順 NTT 東日本関東病院

古畑善章 日本赤十字社医療センター

深見武史 国立病院機構東京病院

吉田幸弘 旭中央病院

佐野 厚 茅ヶ崎市立病院

西村 隆 東京都健康長寿医療センター（心臓外科・呼吸器外科部長）

なお本研究計画書に関しては当院臨床試験審査委員会にて承認を受けております（当院受付番号：新 260404）。